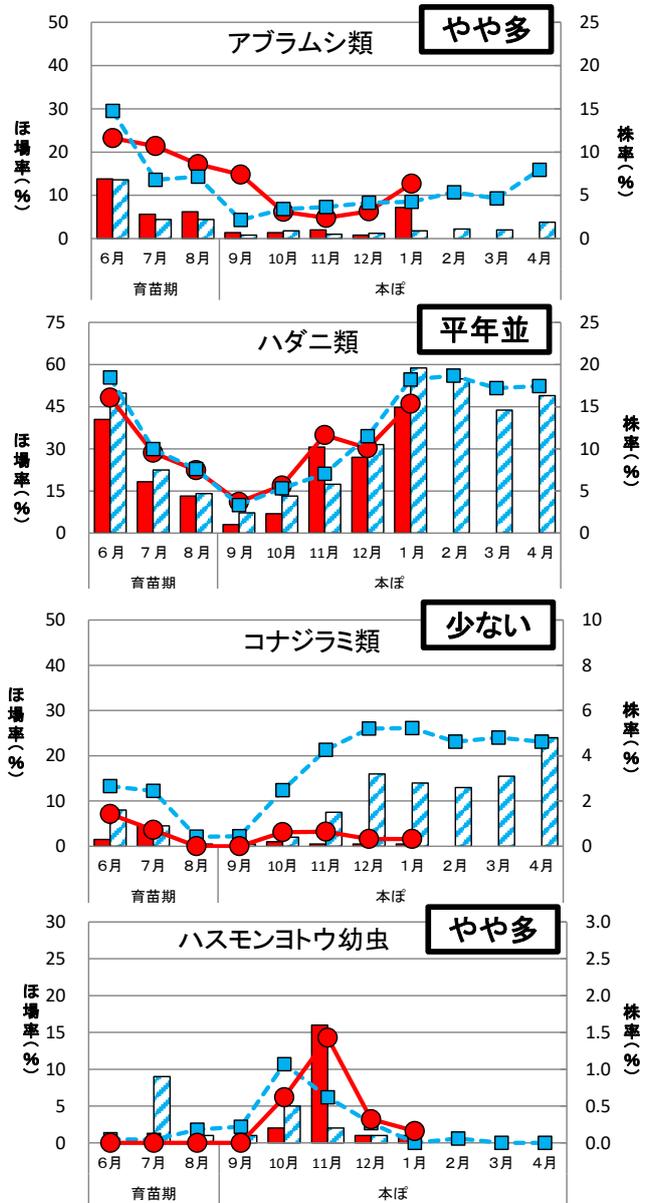
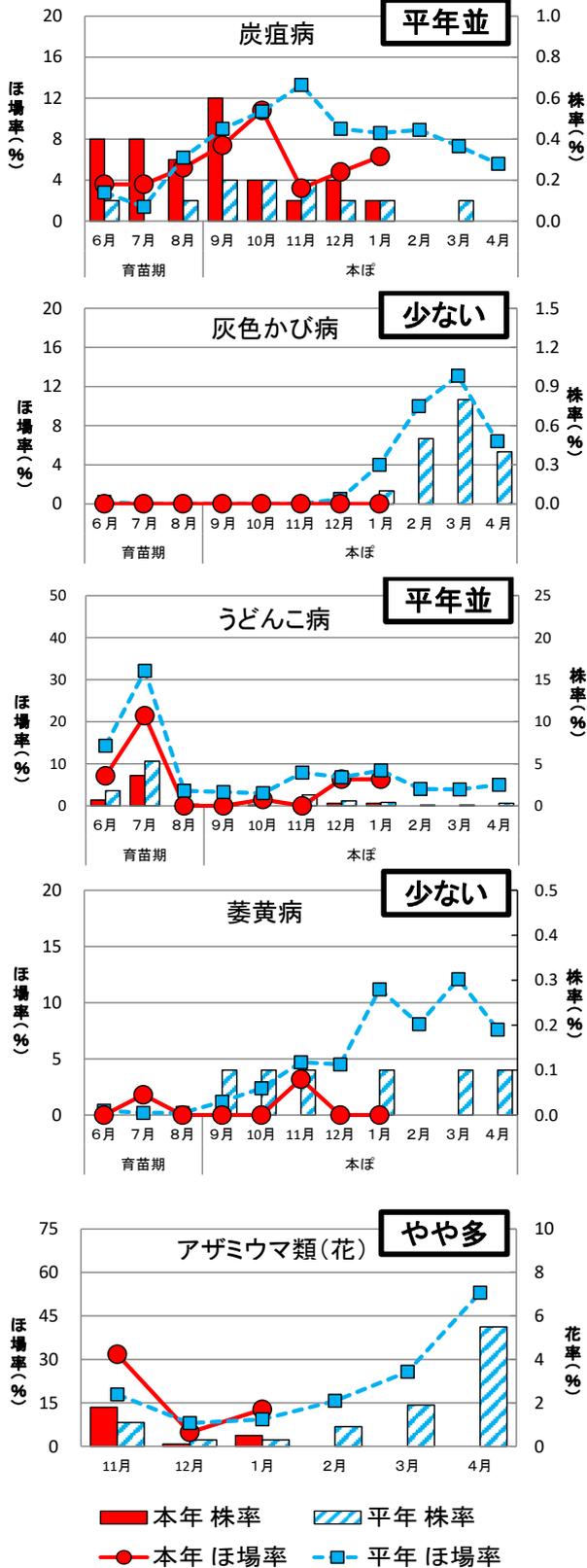


いちご病害虫情報第8号 (1月)

令和7(2025)年1月24日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数 63 か所】



※ほ場あたり25株調査
※株率(%) : 発生株数 / 調査ほ場数 × 25株
※ほ場率(%) : 発生が確認されたほ場数 / 調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー アザミウマ類の対策 ー

秋に発生が認められたハウスでは、2月頃からの被害増加に注意しましょう。

- 1 ハウス内で越冬したアザミウマ類は、1～2月頃から増殖しはじめる。春先の被害を抑えるため、秋に発生が認められたハウスでは、マッチ乳剤(RACコード I:15)等で適切に防除する。
- 2 3月以降は短期間で急増するため、こまめに花や果実を観察する。

■ 今月のトピックス アブラムシ類

被害症状について

イチゴはアブラムシ類に寄生されると葉が萎縮し、草勢が低下します。本ぼの保温開始期以降には、甘露の排出によるすす症でがくや果実が汚れ、商品価値が著しく低下してしまいます。

県内のイチゴに寄生するアブラムシ類は数種知られてますが、その主体はワタアブラムシです。ワタアブラムシは雑草等からほ場内に侵入し増殖します。本虫はイチゴの未展開葉の隙間、がく、果実、ランナー先端部等、あらゆる部位に寄生・加害します。特に、未展開葉の隙間での増殖を見逃しやすいため、管理作業中によく確認しましょう。発生が多くなると、被害株上、もしくはその周辺のマルチに甘露や白い脱皮殻が見られます。



ワタアブラムシ無翅虫



株元のすす症



がくのすす症

防除対策について

- 被害株周辺のマルチにアブラムシ類の分泌する甘露や白い脱皮殻が見られたらアブラムシ類が発生していると判断しましょう。脱皮殻は葉裏にも見られます。
- 薬剤散布は、かけムラのないように行いましょう。特に気門封鎖剤は、アブラムシ類に直接かからないと効果が無いので注意しましょう。
- ORAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 天敵を利用するときは、アブラムシ類の発生状況を見ながら適時に放飼し、天敵に影響の少ない農薬を散布しましょう。
- 施設は開口部を防虫ネットで覆い侵入を防ぎましょう。
- 施設内外の雑草は増殖源となるので除草しましょう。

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課

(Tel 028-665-1244) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX (旧ツイッター)「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。

